

2020年8月17日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

2020年度 学術情報流通推進委員会 活動報告

第1期基本方針のもと、2020年度（4月～7月）は次の活動に取り組んだ。

(1) 国内ステークホルダーとの協調

- ポジションペーパー及び俯瞰図の作成
2019年度第1回委員会では各ステークホルダーの活動状況報告を行い、第2回委員会(メール審議:3月9日から3月16日)では、各ステークホルダーの活動に係る課題や連携の可能性等をまとめたポジションペーパーを作成し、情報共有を行った。2020年度第1回委員会にて、俯瞰図及び表の取りまとめ方について審議する。
【詳細は、資料3を参照のこと】

(2) 国際協調に係る戦略の検討と提言

- arXiv.org の活動支援
arXiv.org は、物理学、数学、コンピュータサイエンス等のプレプリントサーバとして、同分野を中心とした研究成果のオープンアクセスとアーカイブを進めている。日本においては、arXiv.org の利用実績が多い研究機関がコンソーシアムを形成してこの取組みを支援しており、国立情報学研究所にて、コンソーシアムの年会費の取りまとめを行っている。
- 2020年の参加状況
国内既参加機関への継続参加の意向確認調査に対して参加の意向確認調査を行い、5月に全ての回答を受領した。
これに基づき arXiv 事務局（コーネル大学）に2020年の参加機関のリストを送付した。arXiv 事務局からこれに基づき2020年の年会費が請求されており、NIIが取りまとめて支払いをする予定である。その後9月に、参加機関に対して請求書を送付する予定である。

回答状況

継続参加	16 機関
新規参加	0 機関
不参加	0 機関

- 2020年 Member Advisory Board (MAB) への参画

2018年からMAB (Member Adversary Board) には、国内参加機関を代表して、武田英明教授 (国立情報学研究所/学術情報流通推進委員会) に参加いただいている。2020年度は、現時点でアナウンスがないが、オンライン開催等があれば武田教授に出席いただく予定。

- CLOCKSS の活動支援

CLOCKSS は、世界の主要な出版社および図書館による非営利の共同事業で、電子的な学術コンテンツへのアクセス保障と恒久的保存を目的に、*ダークアーカイブ* (アクセスが限定されたアーカイブ) を構築している。当研究所は、コンテンツを保持する世界12のノード機関の一つとして参画する他、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) と連携して、CLOCKSS との協議や国内大学図書館のCLOCKSSへの参加取りまとめを行っている。

- 2020年の参加状況

国内既参加館への継続参加の意向確認調査を行うとともに、JUSTICEの協力により会員館に対して新規参加を促す広報を行った。6月に調査回答のとりまとめを完了し、これに基づいてCLOCKSS事務局に2020年の参加機関リストを送付した。

CLOCKSSからこれに基づき請求書が発行され、NIIがとりまとめて支払いをする。8月下旬に参加機関に対して請求書を送付する予定である。

回答状況

継続参加	101 機関
新規参加	0 機関
不参加	2 機関

- CLOCKSS Board Meeting への参画

2018年度より、武田英明教授にCLOCKSS Board of Directorsのメンバーとして参加いただいている。2020年は9月17日にオンライン開催が予定されており、武田教授にご出席いただく予定である。

● SCOAP³の活動支援

SCOAP³は、欧州原子核研究機構(CERN)が主導する、高エネルギー物理学(HEP)分野の査読付き学術雑誌論文のオープンアクセスを実現する国際連携プロジェクトである。日本においては、SCOAP³対象誌を購読している研究機関を中心に、従来図書館が出版社に支払ってきた購読料を、論文出版加工料(APC)に振り替えることで、HEP分野の主要な学術雑誌のオープンアクセスを支援している。当研究所は、この支援の取りまとめを行っている。

● 2020年の参加状況

5月末までに、国内既参加機関への継続参加の意向確認調査を行い、併せて新規参加機関の申請を取りまとめた。

これに基づきCERNに2020年の参加機関のリストを送付した。現在、フェーズ3(2020-2022)のMoU addendumの締結準備を進めており、締結後にCERNから2020年の年会費が請求され、NIIが取りまとめて支払いをした後に、参加機関に対して個別に請求書を送付する予定である。

回答状況

継続参加	72 機関
新規参加	9 機関
不参加	1 機関

● 拠出期待額及び実際の拠出額

2020年に日本に拠出が期待されている金額等は以下のとおりである。

- 日本に期待される拠出額 : 694,000 ユーロ
- 2020年の日本の拠出額 : 451,702.80 ユーロ (2020年8月17日現在)
- 不足額 : 242,297.20 ユーロ (約2,900万円)

● Governing Council (総会) への参画

野崎委員と山地教授(国立情報学研究所)が委員として、年数回行われる会議等に参加いただいている。

(3) アドボカシー活動の実施

● SPARC Japan セミナー2020の開催

- 企画WGを組織して(主査:林委員), SPARC Japan セミナー2020を計3回実施する予定。

【詳細は、資料4を参照のこと】

● 海外動向に係る情報発信

- 2020年度のトピック及び担当委員について2020年度第1回委員会で審議する。

【詳細は、資料5を参照のこと】

- 広報物の作成及び公開

- 年報

- 2018 年度の日本語版を発行し，現在英語版と 2019 年度の日本語版の発行準備を進めている。年報には，当期の基本方針，当年度活動内容（セミナーの記録ほか），委員会等の開催記録と名簿，総合年表，SPARC Japan ニュースレター等を掲載している。

- SPARC Japan NewsLetter

- 38～41 号（日本語版）を発行した他，36 号～41 号（英語版）の発行準備を進めている。NewsLetter には，SPARC Japan セミナーの開催報告の他に，arXiv.org 等国際的なイニシアティブの活動概要も掲載している。

(4) 学術情報流通の動向に係る調査の提言

- 2019 年に引き続き，日本の論文公表実態調査について，JUSTICE に協力する。